

グループホームあいあるみすまい
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503759		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホームあいあるみすまい 1階		
所在地	札幌市南区簾舞3条5丁目8-33		
自己評価作成日	平成29年2月15日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2015.022_kan=true&JigyosyoCd=0170503759-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流を心掛けており、毎年恒例となっている施設のお祭り『納涼祭』には地域の方を招いたり、用具の貸し出しを頂いたり、バザーでの食べ物の提供、駐車スペースの提供を頂いている。また、近所のバレエ教室の訪問により、バレエの発表を施設内でしていただけることで、ご入居者様全員で鑑賞することが出来ている。その際には生徒さんのご家族様もいらっしゃるため、ホーム内の見学をしていただく機会となっています。施設外に畑を借り、農作業に精を出したりと、ご入居者様が今まで行ってきたことを継続出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の幹線道路に面した場所にある2階建て2ユニットのグループホームである。バス停が目前にあり、公園や学校、コンビニエンスストアなども近く、利便性が高い。建物は南に面して居間があり、キッチンや浴室を中心に居室が配置されている。居室には家族の写真や鉢植え、ぬいぐるみなど、好きなものを自由に持ち込んでいる。職員は理念をよく理解し、本人の気持ちを尊重した利用者本位の支援を心がけ、利用者の表情も豊かである。地域交流の面では、地域のお祭りや健康教室に出かけ、事業所にバレエ教室の生徒による踊りや、オカリナサークルのメンバーによる演奏も来て交流している。ケアマネジメントの面では、介護計画を更新する際のモニタリング表や評価表、会議記録などが整備され、日々の記録も目標に沿って行われている。医療支援の面では、3カ所の協力医による往診体制が整い、受診内容の記録も整っている。食事は、手作りメニューの日やホットプレート料理の日を設けたり、近くに借りている畑で利用者と一緒に収穫した野菜も食卓に乗せて楽しんでいる。外出の面では、日常的な散歩の他、外出行事が豊富で、雪まつり見学や温泉ツアー、外食、花見など様々な行事を楽しんでいる。利用者が安心して生き生きと過ごすことができるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を掲示し、常に職員のみならず訪問者の皆様へも見えるようにしている。また毎日の朝礼で唱和することにより、実践につなげられる様心がけている。	法人共通の理念の中で「地域に根ざし、温かい福祉社会の実現を目指します」と掲げ、事務所や廊下に掲示している。また、理念を朝礼で唱和している。その他に事業所独自の介護方針も立てている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り等の催しものへの参加は、出来る限りしている。また近所のバレー教室の生徒さんによる発表を施設内で行って頂いてはいるが日常的な交流には至っていない。	年に3回程ある地域のお祭りに利用者と参加している。まちづくりセンターでの健康教室に行く利用者もいる。事業所でバレー教室の生徒による踊りや、オカリナサークルのメンバーによる演奏も披露されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けたそのような活動の機会はまだ持った事がない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組みの報告をし、参加者の皆様から意見を頂いている。またいただいた意見をケアに反映させ、再度報告を行っている。	運営推進会議は年6回開催され、地域包括支援センター職員、町内会役員が参加しているが家族の参加は得られていない。防犯や外部評価をテーマとしているが、報告事項が中心となっている。議事録を家族に送付している。	年間を通して会議のテーマを設定し、資料も用意してより活発な話し合いの場となることを期待したい。また、家族の参加が得られるよう継続的に呼びかけたり、家族が参加しやすい日時を検討するなどの工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは相談として連絡を取ることはあるが、取り組みを特別に伝える等のことは行っていない。区の保護課担当者とは協力を頂けるような関係作りに努めている。	運営推進会議で地域包括支援センター職員による情報提供を受けている。区の管理者会議に出席し、役員を務めている。また、区の就労支援制度に協力し、職員の受け入れを行ったこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人共通のマニュアルを常に関覧出来るようにしている。玄関の施錠も、特別な事情がない限り、夜間のみとしている。	身体拘束を行っておらず、具体的な禁止行為を記したマニュアルを整備し、都度確認している。職員は外部研修等でも禁止行為を学んでいる。玄関は日中施錠せず、出入があればセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人共通のマニュアルを常に関覧出来るようにしている。内外の研修にも可能な限り参加をしている。		

グループホームあいあるみすまい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の研修は行っているが、活用しての支援はまだ機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は書類を見ながらの口頭説明を行い、理解が得られている。利用料金の改定等があった場合には、事前に通告し、同意書を頂く等の対応を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等をお聞きする機会を特別には設けていないが、面会や連絡等の際にお聞きし、反映出来る様心がけている。	家族の来訪時や電話連絡をした際に意見を聞き、得られた意見を「介護記録」に記載し、共有している。毎月、写真を沢山載せた「あいあるみすまい通信」を家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談をし、意見や提案を出しやすいような工夫はしている。	月1回、全体会議とユニット毎の会議を行い、活発な意見交換が行われている。年2回、管理者と職員の面談も行っている。職員はそれぞれ、行事や備品管理、飾り付け、防災などの役割を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課プログラムの導入で、職員自身が努力の成果が目に見える形となり、やる気につながっていると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り、内外の研修に出られるように心掛けをしている。また、研修は可能な限り勤務扱いでの対応をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流(研修)は行っているが、他社との交流は出来ていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前のご本人様面談時や、ご家族さま、入院中であれば病院関係者から情報を収集し、お話を聞きながら、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前からお話の機会を設けることで、問題点や要望を伺えるよう努めている。ご入居後も面会等を通じて、ご要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限りの他のサービスの提供も出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が参加可能な趣味活動や家事などを通して関係性の向上を図るとともに		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とご本人様が関係を継続出来るように努めている。連絡を密にしながら、提案と一緒に相談をしながらご本人様を共に支えている。また、来所が難しいご家族様には施設通信の他にお手紙を添えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様からの特別な依頼がない限りは、面会や電話の制限はなく、ご本人様に任せている。(時間的な配慮は頂いている)場所に関しては、ご希望によってはご入居前からかかっている病院への継続的な通院を支援している。	2名ほどの利用者に友人や知人が来訪しており、年賀状が来ている方もいる。1名の方は家族と行きつけの美容室や外食に出かけ、3～4名の方は家族とお墓参りに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事参加やレク等を通してご入居者様同士が関われる機会を設けている。必要に応じて職員が介入したり、見守ったりとしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例としてはないが、契約終了後にも相談や支援を行うことを入居契約時に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様・ご家族様から聞き取りを行いながら、把握に努めている。把握が困難な場合には、情報や生活歴から読み取るように心がけている。	3分の2ほどの利用者が言葉で思いや意向を表現でき、難しい方の場合も表情や仕草などから把握している。センター方式のアセスメントシートを定期的に更新している。	利用者の基本情報シートの作成と定期的な追記や更新を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時、ご家族様にアセスメントシートのご記入をいただいたり、その都度直接聞き取りを行っている。また、ご入居前に利用していたサービス提供先や病院などからも情報をいただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	都度介護記録に記入し、職員全員が変化の把握が出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、毎月のミーティングで個々のご入居者様について話し合いを行い、皆で現状の確認をしながら、介護計画を作成している。	介護計画を3ヵ月で更新している。モニタリング表をもとに評価を行い、意見を会議で集約して次の計画を作成している。会議の記録も整備されている。日々の介護記録は計画目標の番号を記載しながら記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入を行い、必要に応じて別書式も用いながら情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りに個別のニーズに対応できるように心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分に活用出来ているとは言えないが、地域資源も活用しながらその人らしい生活が出来る様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時に病院の選択はしていただいている。病院とも良好な関係が築ける様努めている。必要に応じては御家族様に同席をお願いし、希望される医療が受けられるように支援している。	3ヵ所の協力医による月2回の往診を受け、その他の通院も概ね事業所で送迎している。受診内容を個人ごとの「受診結果報告書」に記載し、情報を共有している。医療関連の家族への連絡は介護記録に記載している。	

グループホームあいあるみすまい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は法人内の訪問看護事業所から週に2回来ています。その時にはご入居者の体調確認や対応の方法等のアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を出来るだけ早く作成し、正確な情報が伝わるように努めている。早期退院に向けては面会をしながら、施設での受け入れられる状態を伝える等している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針については、ご入居時にご説明をしている。その後は状態により都度、説明、相談を行い、施設で出来ること、ご本人様・ご家族様が望まれることをお聞きしながら、病院の意見も聞きながら取り組んでいる。	利用開始時に「重度化した場合の対応にかかる指針」を説明し、同意書を得ている。現在は事業所での看取りは難しく、説明して納得を得ているが、医療機関や家族との協力体制が整えば、可能な範囲で看取りを行うことを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修を受けているが、職員全員ではない。全員が研修を終えられるように努める必要がある		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年に2回避難訓練を行っている。災害緊急時用の連絡網には地域の方にも入って頂き、毎回ではないが避難訓練にもご参加いただけるように働きかけている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防署の指導のもと行っており、来月の訓練には住民も参加予定である。職員の救急救命訓練も計画的に行い、備蓄品も用意している。地震等の災害に対する確認等は行っていない。	地震や停電等、火災以外の災害に対する対応について、マニュアルや資料を用意し、会議等で定期的に確認しておくことを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご入居者に合わせた声掛けの方法を使い分けたりしている。	名前を「さん」付けで呼び、温かな姿勢で対応している。小声で排泄を確認し、着替えの時も他者の目に触れないよう、羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や意見を聞き取りながら、日常の些細なことでも自己決定して頂ける様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や時間、食事の時間など対応の出来る範囲内では希望に添える様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	道具の用意や声掛けを行いながら、出来る様に支援している。		

グループホームあいあるみすまい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	軽作業は一緒に行えるように努めている。食器拭きに関してはほぼ毎食行って頂いている。	食材会社の献立を基本に、月4回は手作り料理を提供し、月1回ホットプレートを活用してジンギスカンなどを楽しんでいる。畑で採れたミニトマトの味噌漬けや、おやつ作りに利用者も参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分に関してはその都度記録を行っている。不足が見られれば、都度好みの飲み物の提供や時間や食器を変える等で無理なく摂取して頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方には声掛け、セッティングを行っている。困難な方には介助を行い、毎食後行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で話し合いを行い、必要に応じて夜間だけの使用に切り替えたり、トイレへの誘導のタイミングを変えてみたりしている。	行動の見守りがあれば半数は自力で排泄ができ、可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の状態からベッド上で交換する事もあるが、排便はトイレで行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便が出来る様、牛乳の提供や、飲水量の確保を行っている。それでも便秘になるようであれば、主治医と相談をし、下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴曜日は決まっているが、体調や希望に合わせて合わせることもある。時間に関しても、出来るだけ希望に添える様に心がけている。	日曜を除き、午後の4時頃から夕食前までに、週2回の入浴を支援している。入浴の拒否が続く時は職員が同行して温泉浴に入ることもある。職員の2人介助で湯船に浸かり、一人で入りたい時は見守るなどして気持ちよく入れるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めておらず、ご入居者様の自由をしている。必要な方には入床の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について副作用まで職員全員が理解しているとは言えない現状にある。服薬に支援に関しては、個々のご入居者様に合った方法をその都度検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調をみながら、家事参加などの役割や気分転換となること(歌や掲示物作成)を職員と一緒にやっている。		

グループホームあいあるみすまい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、なるべく添える様にしている。普段行けない所に関しても、目的地だけでなく大概案を出すことで可能場合もある。	事業所の周囲を散歩し、車椅子使用の方も出かけている。利用者の状態を見て数人ずつ交代で外出し、定山溪での足湯や保養センターの温泉浴、季節の花見、中山峠などをドライブしている。冬期は受診の他、雪まつりを見学して外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方には、現金を持って頂いているが、その際にはご家族様へリスク(紛失等)の説明をさせていただき、同意を得た場合のみ持たせて頂いている。実際に支払うことは少ないが行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に希望はその都度行っている。また、手紙も回数は少ないが、便箋を差し上げたり等支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	都度快適なものになるように調節し、不快感を与えないように心掛けている。また、ホールには季節ごとの飾りをし、季節感を感じてもらえるようにしている。	共用空間はキッチンを中心に居室を配置した造りで、居間の窓辺にソファや畳のスペースがあり、ゆったり過ごすことができる。壁には利用者も参加した桜の作品や手作りの日めくりが飾ってある。マガジンラックやゲームの道具を置き、温かで家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に大きな工夫はないが、利用者同士が話しやすい様に、職員が気を配りながら、椅子の配置を変えたり等心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持ち込みは自由として、出来るだけ馴染みのものを持ってきたりできるようにしている。また、居室内配置に関してはご本人様と相談をして、安全に生活出来る様に移動を都度行っている。	居室内に馴染みの家具類や小物類、仏壇などが持ち込まれている。趣味の鉢植え、家族や好きな動物の写真や飾り、大小の縫いぐるみを置くなど、本人が馴染んだ物に囲まれて安心できる居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れる様、施設内はトイレ等の掲示はわかりやすくする等の工夫はしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503759		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホームあいあるみすまい 2階		
所在地	札幌市南区簾舞3条5丁目8-33		
自己評価作成日	平成29年2月15日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503759-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流を心掛けており、毎年恒例となっている施設のお祭り『納涼祭』には地域の方を招いたり、用具の貸し出しを頂いたり、バザーでの食べ物の提供、駐車スペースの提供を頂いている。また、近所のバレエ教室の訪問により、バレエの発表を施設内でしていただけることで、ご入居者様全員で鑑賞することが出来ている。その際には生徒さんのご家族様もいらっしゃるため、ホーム内の見学をしていただく機会となっています。施設外に畑を借り、農作業に精を出したりと、ご入居者様が今まで行ってきたことを継続出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を掲示し、常に職員のみならず訪問者の皆様へも見えるようにしている。また、毎日の朝礼で唱和することにより、実践につなげられる様心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り等の催し物への参加は出来る限りしている。また、金城のバレエ教室の生徒さんによる発表を施設内で行って頂いてはいるが、日常的な交流には至っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けたそのような活動の機会はまだ持って事がない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組みの報告をし、参加者の皆様から意見を頂いている。またいただいた意見をケアに反映させ、再度報告を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは相談として連絡を取ることはあるが、取り組みを特別に伝える等は行っていない。区の保護課担当者とは協力を頂けるような関係作りに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人共通マニュアルを常に関覧できるようにしている。玄関の施錠も特別な事情がない限り、夜間のみとしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人共通のマニュアルを常に関覧出来る様になっている。内外の研修にも可能な限り参加している。		

グループホームあいあるみすまい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の研修は行っているが、活用しての支援はまだ機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は書類を見ながら口頭説明を行い、理解が得られている。利用料金の改定等があった場合には、事前に通告し、同意書を頂く等の対応を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等をお聞きする機会を特別には設けていないが、面会や連絡等の際にお聞きし、反映出来る様に心掛けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談をし、意見や提案を出しやすいような工夫はしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課プログラムの導入で、職員自身が努力の成果が目に見える形となり、やる気につながっていると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り、内外の研修に出られるように心掛けている。また、研修は可能な限り勤務扱いでの対応をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流(研修)は行っているが、他社との交流は出来ていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご本人様面談時や、ご家族様、入院中であれば病院関係者から情報を収集し、お話を聞きながら、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前からお話の機会を設けることで、問題点や要望を伺えるよう努めている。ご入居後も面会等を通じて、ご要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限りの他のサービスの提供も出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が参加可能な趣味活動や家事などを通して関係性の向上を図るとともに入居者様同士の間に入り、関係が円滑になるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とご本人様が関係を継続出来るように努めている。連絡を密にしながら、提案や一緒に相談をしながらご本人様を共に支えている。また、来所が難しいご家族様には施設通信の他にお手紙を添えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様からの特別な依頼がない限りは、面会や電話の制限はなく、ご本人様に任せている。(時間的な配慮は頂いている)場所に関しては、ご希望によってはご入居前からかかっている病院への継続的な通院を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事参加やレク等を通じてご入居者様同士が関われる機会を設けている。必要に応じて職員が介入もしくは見守りを行っている。		

グループホームあいあるみすまい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例としてはないが、契約終了後にも相談や支援を行うことを入居契約時に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様・ご家族様からの聞き取りを行いながら、把握に努めている。把握が困難な場合には情報や生活歴から読み取るように心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時にご家族様にアセスメントシートのご記入を頂いたり、その都度直接聞き取りを行っている。また、ご入居前に利用していたサービス提供先や病院などからも情報を頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	都度介護記録に記入し、職員全員が変化の把握が出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、毎月のミーティングで個々のご入居者様について話し合いを行い、皆で現状の確認をしながら、介護計画を差規制している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入を行い、必要に応じて別書式も用いながら情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個別のニーズに対応できるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分に活用出来ているとは言えないが、地域資源も活用しながらその人らしい生活が出来る様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時に病院の選択はして頂いている。病院とも良好な関係が築ける様努めている。必要に応じては御家族様に同席をお願いし、希望される医療が受けられるように支援している。		

グループホームあいあるみすまい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在法人内の訪問看護事業所から週2回来ている。その際にはご入居者様の体調確認や対応方法等のアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を出来るだけ早く作成し、正しい情報が伝わるように努めている。早期退院に向けては面会をしながら、施設での受け入れられる状態を伝える等している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針については、ご入居時にご説明している。その後は状態により、都度、説明・相談を行い、施設で出来ること、ご本人様ご家族様が望まれることをお聞きしながら、病院の意見も聞きながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修を受けているが職員全員ではない。全員が研修を終えられるように努める必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年2回避難訓練を行っている。災害緊急時用の連絡網には地域の方にも入って頂き、毎回ではないが避難訓練にもご参加いただけるように働きかけている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご入居者様に合わせた声替えの方法を使い分けたりしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や意見を聞き取りながら、日常の些細なことでも自己決定して頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や時間、食事の時間など対応出来る範囲内では希望に添える様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	道具の用意や声掛けを行いながら、出来る様に支援している。		

グループホームあいあるみすまい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時には包丁も使用しながら一緒に出来る様に努めている。食器拭きに関しては毎食後半数程度のご入居者様にお手伝い頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分に関してはその都度記録を行っている。不足が見られたら、都度好みの飲み物の提供や、時間や食器を変える等で無理なく摂取して頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方には声掛けやセッティングを行っている。困難な方には介助を行い、毎食後行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で話し合いを行い、必要に応じて夜間だけの使用に切り替えたり、トイレへの誘導のタイミングを変えてみたりしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便が出来る様、牛乳の提供や飲水量の確保を行っている。それでも便秘になるようであれば主治医と相談し下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴曜日は決まっているが、体調や希望に合わせている。時間に関しても出来るだけ希望に添える様に心掛けている。また、外部の入浴施設を使うこともある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めておらず、ご入居者様の自由としている。必要な方には入床の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について副作用まで職員全員が理解しているとは言えない現状にある。服薬の支援に関しては、個々のご入居者様に合った方法をその都度検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調をみながら、家事参加などの役割や気分転換となる事(ゲームや掲示物作成)を職員と一緒にやっている。		

グループホームあいあるみすまい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、なるべく添える様にしている。普段行けない場所に関しても、目的地だけでなく、代替え案を出すことで可能な場合もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方には、現金を持って頂いているがその際にはご家族様へリスク(紛失等)の説明をさせていただき、同意を得られた場合のみ持ってもらっている。実際に支払いをしていただくことも支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて都度行っている。手紙のやり取りも一緒に投函しに行ったり等支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	都度快適なものになるように調整し、不快感を与えないように心掛けている。また、ホールには季節ごとの笠利をし、季節感を感じてもらえるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に大きな工夫はないが、利用者様同士が話しやすい様に、職員が気を配りながら、椅子の配置を変えたり等心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持ち込みは自由とし、出来る限り馴染みのものを持ってきたりいただけるようにしている。また、居室内の配置に関してはご本人様と相談し、安全に生活出来る様に移動等を都度行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れる様、施設内はトイレ等の掲示はわかりやすくする工夫はしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あいあるみすまい

作成日：平成 29年 3月 25日

市町村受理日：平成 29年 3月 31日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議へのご家族様の参加がなく、参加しやすい日時の設定が必要と思われる。また、年間でテーマ設定を行い、より活発な会議にしていける必要がある。	ご家族様が参加いただけるように、声掛けをするだけでなく、日にちの設定を工夫する。年間テーマを設定する。	運営推進会議の日にちを日曜日にする等、ご家族様の参加がしやすい日に設定をしてみる。年間のテーマを設定し、参加しやすいものとする。	6ヶ月
2	23	入居時サマリーや、ご家族様記入のアセスメントシートはあるが、入居者様によってまちまちである。	事業所独自の基本情報を作成し、定期的に見直しを行う。	ご本人様の病歴等だけでなく、どのような人か人となりがかわるような基本シートの作成を行う。	3か月
3	35	火災以外の対応についてのマニュアル、話し合いが不足している。	地震や停電等の災害対策マニュアルや資料を用意し、ユニット会議等で話し合いの場を設ける。	火災以外の災害対応マニュアルの作成。自治体で配布している資料等を参考にして、ユニット会議等で話し合い、職員の不安や、考えを深めていく。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。